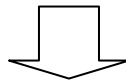


## 三木市 観光まちづくりへの提案

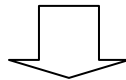
平成20年3月  
近畿観光まちづくりアドバイザー会議

### 【提 言】

三木市の観光まちづくりへの取り組みは、まだ緒についたばかりであり、観光サインや案内板、駐車場、トイレ等ハードを含めた観光基盤整備が必要だが、これから本格化していく後発組としての十分な余地が残されていると前向きに捉えたい。



そのためには三木市の観光まちづくりを進めるためのキーワードを定め今後5年、10年後を見据えたビジョンづくり、テーマ設定が肝要である。



ビジョン、テーマを明確にすることで行政・観光関係者・農林商工業者・住民等が参画する推進体制の事業活動がぶれず、観光まちづくり目的のハード整備、人材育成、誘客ターゲットの設定が持続可能な形で実現すると考える。

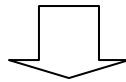
そのため、近畿観光まちづくりアドバイザー会議では次項以下の提案を行いたい。

## ○STEP 1 【現状分析と推進体制づくり】

三木市は広い市域に時間消費型の大規模集客施設（兵庫県立防災公園、三木ホースランドパーク、グリーンピア三木、25カ所のゴルフ場、三木山森林公園、よかたん等）が点在し、それぞれターゲットが異なるため統一した観光イメージを持ちにくい。

一方で、ボランティアガイドの内容はわかりやすく、他の観光地以上の水準にあり、改善点はあるものの「肥後の守体験」や「ロジウラタンサク」も三木市のオリジナリティが発揮される観光資源だと言える。

この2つの要素は、集客を考える上では別個に考える必要があるが、5年、10年後を見据えた観光まちづくりを考える上では同じテーブルに就き推進していくべきだろう。



視察時に意見交換した出席者を観光まちづくり推進母体として定期的集まるよう提案したい。

推進母体は将来、市内観光のコーディネート窓口としての役割も担うよう提案したい（後述）。

## ○STEP2 【個別資源の現状分析～視察後の印象から～】

### ① よかたん・山田錦の郷

日本一の炭酸含有量を十分に宣伝できていない

→平日利用者増加のために入浴券と野菜等の買い物券をセットすることで実質値引きし、日帰りプラン（入浴＋食事＋買い物）を旅行会社とタイアップする。

### ② 御坂のサイフォン

整備を行えば観光スポットになる可能性はある

→河原から見ないと本来の価値が分からない。駐車場の設置をはじめ周辺の景観整備が必要。

③ 兵庫県立総合防災公園

教育旅行を中心とした団体を対象に、防災学習等を切り口とした誘致が可能。

④ 肥後の守体験

「自分だけの刃物」体験を全面に宣伝すれば、三木市ならではのNo.1の観光素材となる

→定期的に開催するため体験をパッケージ化し、拠点となる施設の整備や工程の説明等の付加価値を高める。

⑤ ロジウラタンサク

レトロな町中の「面白いもの」に着目した意欲的な取り組み

→ただ歩いて見るだけでなく、「食べる」「買う」など目玉がほしい。

町中の交通量を踏まえ、参加者の安全対策も必要。

⑥ 三木鉄道・三木駅

廃止後の駅舎を活用し、農家レストランや交通歴史館などで活用されては。

⑦ 三木ホースランドパーク

集客を拡大する方針がどこまであるか確認が必要だが、日本でも珍しい施設で売りになると思われる

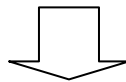
→ホーストレッキングのコースはハイキングやマウンテンバイクでの利用にも適しており、馬と触れ合うホースセラピーも打ち出したい。

### STEP3 【観光まちづくりのキーワードとビジョン】

上記の STEP を踏まえ、10 年間といったスパンで持続できる推進体制づくりと個別資源の有効活用を図る上では、三木市観光まちづくりを想起し市民らが共有できるキーワードが必要だと考える。

#### 案：「スポーツ観光都市」

- ① 県立総合防災公園、グリーンピア三木、三木ホースランドパークなど全国有数のスポーツ施設を持つ。
- ② 生涯スポーツとして親しまれているゴルフ、テニスを楽しめる施設が豊富である。
- ③ オリエンテーリング方式のロジウラタンサク、湯の山街道のウォーキング等も広義にはスポーツ観光と捉えることができる。
- ④ 三木山森林公園等をファミリー・アウトドアスポーツ体験の拠点と位置づけ、園内でのクラフト体験と肥後の守づくり体験を組み合わせられる。
- ⑤ スポーツを楽しむ上で「健康」な身体づくりは欠かせず、よかたんなどの温泉浴はもちろん、特産の新鮮な野菜を活用した新たな食の開発につながる。



「スポーツ観光」によって既存の観光資源を活用する  
イメージの共有、創出を図ることが可能

具体的には「スポーツ観光都市」を宣言し、数年先を三木市スポーツ観光年として『スポーツ観光博』等のイベントを開催する。

- ・ イベントの開催によって、市内スポーツ愛好家をはじめ市民同士の横のつながりができ、住民の参画意識が高まるものと考えられる。
- ・ プロレベルの大会を誘致すると同時に、ウォーキング団体など市民レベルの大会誘致、市民マラソンの開催、ファミリーアドベンチャーレース（通常のアドベンチャーレースはMTBやカヌーなどを組み合わせてタイムを競うが、この場合は肥後の守体験、三木市の食材を使った料理体

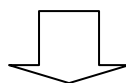
験、ロジウラタンサク、防災公園の避煙体験などを組み合わせる)、ゴルフ場の協力を得て親子コンペなどのイベントも実施する。

- ・ 三木 de ルネサンスなどと銘打ち、豊富なスポーツ施設を活用した運動療法、新鮮な農産物による食事療法などもプログラム化したい。
- ・ イベント開催に向け、様々な分野種目で市民インストラクター、インタープリター、ガイドを養成するほか、マラソンコース沿道での炊き出しなどスポーツを愛好する市民だけに留まらない参画機運を盛り上げたい。

## ○ STEP4 【商品化とマーケティング】

神戸、大阪といった300万人を超える市場に「スポーツ観光」をアピールし競技団体などに合宿場所としての誘致を図るとともに、スポーツを通じたファミリー旅行や日帰り型観光、立ち寄り観光を誘致する。

後者については後述する。まずは合宿などスポーツ団体誘致について



### 1. アピール・ポイントの精度を高める

西日本一の25カ所のゴルフ場と同様に、市内に数多くあるテニスコートや人口1人あたりの芝生面積など、スポーツ観光資源を数値化し具体的に訴求する。

### 2. 合宿誘致

世界陸上前の日本代表合宿、国見高サッカー部の合宿などこれまでの実績を強調し、ボディケアとしての「よかたん」入浴、新鮮野菜の食、膝に負担をかけないウッドチップロードでのウォーミングアップなど市内の資源を組み合わせ提案する。

合宿などスポーツ団体を誘致する場合、宿泊や食事場所の確保、交通機関のアテンド、万が一の場合の医療機関の紹介などをコーディネートする必要がある。その窓口として、STEP1の推進体制づくりで述べた組織を「三木市スポーツ観光コミッション」のような形で機能させることが必要と考える。

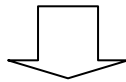
次に、スポーツをはじめ三木市観光を体験するファミリー旅行等、一般観光客の誘致について提案したい。

これまで「スポーツ観光」をキーワードとしてきたが、これは市民向けのインナープロモーションやスポーツ団体の誘致に当たって分かりやすく、メッセージ性のある表現だと考える。

ただ、すでに三木市観光入り込み客で大きなウェイトを占める市外のファミリーに対しては、ファミリー旅行とスポーツの親和性が現状では弱いため、スポーツ観光へのアプローチとして下記のコピーを提案したい。

### 案：「三木・健康Family街道（回廊）」

- ① これまで述べてきたように、大都市圏に近接して自然と親しめる環境にあり、三木山森林公園やグリーンピア三木などでの自然体験やホースランドパークでの馬との触れ合いを通じ「心の健康」がアピールできる。
- ② 豊富なスポーツ施設を利用した「身体健康」をアピールできる。
- ③ よかたん、グリーンピア三木、三木湯庵といった温泉施設を紹介し「家族の裸の触れ合い」「温浴リフレッシュ」をアピールできる。
- ④ 防災公園の避煙訓練や起震車を家族で体験し、家族全員で「健康であるため」の危機管理を学ぶ機会を提供できる。
- ⑤ 肥後の守体験、ロジウラタンサクを通じ、親から子へ伝え残したい場づくりができる。
- ⑥ 近年のゴルフ場は環境保全の意識が高く、将来のゴルフ人口の拡大を図り「健康」「環境」「家族」の3Kの場としても、市内ゴルフ場と連携が深まる機会にすることができる。
- ⑦ 「街道」または「回廊」と名づけることで市内回遊性を高め、施設単体ではなく、トータルで三木市の魅力を発信する機運をつくる。



アウトドアスポーツ体験などを通じて  
身体と心が健康になるファミリー旅行が  
複数回訪れることで実現することを訴求

(添付パンフレット参照)

### 旅行会社のツアー誘致について

前提条件として旅行会社との契約が必要になってくる。

中国方面へのバスツアーの復路に、中国縦貫道・吉川インターや山陽道・三木インターで降り特産品購入や温泉入浴を働きかける。スポーツ観光都市として「身体にいい」特産品等をアピールし、立ち寄りの必然性を訴求する。

現状での日帰りツアーとしては、日本一の炭酸泉と日本一の金物生産地を組み合わせた「日本一体験ツアー」や、馬を通じた親子の触れ合いと炭酸泉での裸の触れ合いで小学校低学年を抱えるファミリー向けツアーが考えられる。

さらに、大都市に近い遊休農地を活用し、貸し農園などが考えられるほか、酒造メーカーと協力し山田錦オーナー制度によるオリジナル清酒づくりも。金物製の銚子や徳利、オリジナルラベルづくり等も三木市で体験できるようにしたい。

三木総合防災公園内の県立広域防災センターで体験できる起震車の乗車体験や煙避難体験は、防災を切り口とした団体の誘致が可能であり、例えば神戸市の「人と防災未来センター」と組み合わせたコース設定によって消防団の視察旅行、学生団体、行政視察などの誘致につながるものとする。